

沖縄科学技術大学院大学に関する 国際シンポジウム(第1回)開催

去る10月16日～18日の3日間、万国津梁館において、沖縄科学技術大学院大学(仮称)設立構想に関連する国際シンポジウムが開催されました。これは、大学院大学の先行的事業として最初に行われた学術イベントであり、大学院大学の柱となる融合分野の研究に関する最新の研究成果の発表や意見交換を行う場を提供するとともに、大学院大学設立構想を広く国内外の科学者に伝えることを目的としたものです。プログラムの概要は以下の通りです。

1. タイトル

分子科学・システムに関する新しい領域：統合的アプローチ

2. 分科会テーマ

A：生物科学・バイオテクノロジーの先端領域

B：情報・計算科学

C：ナノ科学・工学

3. スケジュール

10月16日 茂木沖縄・北方対策担当大臣開会挨拶、特別講演、基調講演、大学院大学設立構想に関するパネルディスカッション、歓迎パーティ -

17日 分科会、ポスター発表、学術パネルディスカッション

18日 分科会、ポスター発表、総括パネルディスカッション、恩納村サイト等視察



本シンポジウムには、20ヶ国から350人の研究者、学生等が集まり、フリードマンMIT教授をはじめとする30人以上の優れた科学者による講演を中心に、分野融合による新たな領域の開拓について熱気のコもった議論を繰り広げました。

参加者の評価は非常に高く、「発表内容は極めて興味深かった。次回もぜひ参加したい。」「沖縄科学技術大学院大学構想はすばらしく、成功を期待する。」「沖縄はとても美しく、また来たい」といった声が会場内のあちこちで聞かれました。

本シンポジウムの成功により、今後の大学院大学設立構想の具体化に弾みがつくことが期待されます。今後とも、内閣府としては、沖縄県民の方々のご理解、ご支援を得ながら、一步一步着実に構想の具体化を進めてまいります。

局報「群星(むりぶし)」とは、沖縄の方言で、昂星(すばる)のことです。それは、あたかも広大な海域に点在する数多くの島々から成る沖縄を象徴しています。また、群星は沖縄の真上を運行し、昔から農事等の暦としての目安となり親しまれてきました。局報「群星」も沖縄の発展の指針となり、県民に親しまれるようにとの願いを込めて命名したものです。

Muribushi 群星

局報 群星11月号
平成15年11月発行 通巻第290号
編集・発行 内閣府沖縄総合事務局総務部総務課
〒900-8530
沖縄県那覇市前島2-21-7
TEL 098-866-0031・0041(代表)
FAX 098-869-6656
ホームページ URL: <http://www.ogb.go.jp>
E-mailアドレス: koho@ogb.cao.go.jp

組踊は、舞踊、音楽、台詞の三つの要素から構成された沖縄独特の戯曲で、踊奉行であった玉城朝薫が中国からの冊封使を歓迎するために創作し、一七一九年に首里城において初めて上演されました。沖縄の伝統芸能の中でも芸術性・芸能史的価値が高く、能楽や歌舞伎と並んで国の重要無形文化財に指定されています。

ところが、組踊をはじめとする沖縄伝統芸能を公開する施設がなかったため、沖縄伝統芸能の保存振興を図る拠点施設の建設が、多くの県民から待ち望まれていました。

そのような中、今月号の特集でも取り上げていますように、完成した国立劇場おきなわが、魅力ある沖縄伝統芸能の更なる発展に貢献するとともに、伝統文化を通じ、本土を含めたアジア・太平洋地域の交流の拠点になって欲しいと思います。